

1 研究主題

自ら関わる児童の育成 ～友達と共に学ぶ、進んでチャレンジする姿を目指して～

2 主題設定の理由

本校では、「自らと社会の未来を切り拓く、知・徳・体の調和のとれた児童の育成」を学校教育目標に掲げ、「すこやかな自主の子（たくましい心と体・進んで学習しようとする意欲）」「手をつなぎ働く子（友だちを大切に作るやさしい心・みんなのために役立とうとする態度）」をめざす児童像として、教育実践を行っている。

昨年度までの研究では、学級活動や行事を中心とした全校活動の中で、児童同士の関わりを深めたり、友達の良さを見つけて伝え合ったりしてきた。まだまだ自己中心的な言動や言葉で思いを伝えることが苦手な面は見られるが、昨年度までの様々な取り組みを通して、児童同士の関わりが増えたり、友達の良さを見つけることが上手になったりしてきている。

一方、学習に対しては苦手意識を持っている児童が多く、県・町の学力調査結果からも学力がついているとは言い難い。学習についての詳しい児童の実態は次のようなものである。

- ・苦手なことに取り組もうとしない、すぐにあきらめる児童が多い。
- ・既習事項が定着していない。
- ・大人を頼りがちである。
- ・様々な思考ツールや表現の仕方を持っていない。
- ・与えられた課題に向けて努力できる児童が増えてきた。
- ・授業に意欲的に取り組む児童が増えてきた。
- ・友達と話し合いながら学習や活動に取り組む児童が増えてきた。

先に述べたように、全体的に学力や学習意欲は高いとは言い難いが、その中でも一生懸命に取り組んだり、昨年度までの研究を通して、友達と関わろうとする姿が見られたりする児童が増えてきている。

そこで今年度からは、昨年度までの研究で培った児童同士が関わる力を授業や学習において発揮することと合わせ、児童の学力や学習意欲を高めるために「自ら関わる児童の育成～友達と共に学ぶ、進んでチャレンジする姿を目指して～」という研究主題・副題を掲げ実践に取り組むこととした。

なおこの研究は3か年を計画しており、3年間のおおまかな研究計画は以下の通りである。

- 1年次…児童の実態把握、目指す学力観・つきたい力の共有、授業等の実践と検証
- 2年次…授業等の実践と検証
- 3年次…授業等の実践と検証、3年間の取組の検証と今後の研究内容の検討

3 研究の目的

全体や個の実態をとらえ、学習計画・単元計画、授業づくり、諸活動を工夫することで、友達と共に学び、自分の力を発揮したり高めたりするために課題に進んでチャレンジする児童を育成する。

4 研究の目標

友達と共に学び、課題に進んでチャレンジする児童を育成するために、授業づくりや諸活動における指導・支援の在り方を追求する。

5 めざす児童像

- 友達と共に学ぶ子
 - ・自分の考えを伝える子
 - ・友達の考えを聞く子
 - ・友達と話し合いながら課題を解決する子
- 進んでチャレンジする子
 - ・初めての課題にもなんとかやってみようと粘り強く取り組む子
 - ・自分の力を高めるために努力する子

6 研究仮説

(1)研究仮説 1

全体や個の実態をとらえ、児童同士の関わり合いが生まれるような授業実践や諸活動に取り組むことによって、児童が自分の考えを伝えたり友達の考えを聞いたりしながら、友達と共に課題解決に向かうことができるのではないかと。

(2)研究仮説 2

全体や個の実態をとらえ、児童が進んで考えようとしたり、自分の力を高めようとしたりできるような授業実践や諸活動に取り組むことによって、課題に進んでチャレンジすることができるのではないかと。

7 研究の内容

(1) 内容

<研究仮説 1 >

- ① 友達と共に課題解決を図る必然性や意欲の向上が期待される課題、場の設定の工夫。
- ② 算数科における学年別指導の工夫。
- ③ 学級活動や学校行事において、児童がお互いの良さに気付けるような活動の工夫。

<研究仮説 2 >

- ① 児童が見通しを持ち、「やってみよう。」と思えたり、自分の成長を感じたりできる課題や学習過程、評価の工夫。
- ② 既習事項の定着、想起を目指した自作テストや朝学習、家庭学習の工夫。
- ③ 児童の思考ツールや経験を増やせるような学習活動や自作テスト、朝学習等の工夫。

(2) 実践の評価方法

- 児童アンケート（7月・12月・2月）
- 児童の日常観察
- 学力調査の結果（県、町）
- 自作テストへの取り組みの観察と結果

8 年間計画

*一人一授業の公開と協議をお願いしたいです。(教科は問いません。特新担に係る授業を含みます。)

* 7月1日, 29日の校内研修は, 町内の学校も参加対象です。

月	研究内容	☆研究授業*校内研修	学力向上関係
4	○研究主題の検討 ○研究計画の立案		○全国学力調査(6年)
5	○研究内容の検討・具体化 (5/13 研究職員会)		○学力育成取組充実シート の作成(担当→町教委)
6	○児童の実態についての情報交 換, 今後の取組についての確認, 自作テストの内容検討等 (6/10 研究職員会)	*特新担サポート訪問(管理 職・田中)	
7	○児童アンケート ○1学期の実践の評価	*1日(月) 算数授業研修(本校での授 業公開・斎藤一弥先生講演) *29日(月)14:00~15: 30 著作権セミナー	
夏 季 休 業	○1学期の実践のまとめ, 見直し ○2学期の計画の立案 (研究職員会, 日にち未定)	*研修講座の報告(各担当) *児童アンケートの分析 (研究職員会, 日にち未定)	○全国学力調査の結果が 学校に返却される(8月下旬?) ○全国学力調査結果分析 (研究職員会, 8/26?)
9	○運動会での取組, ほめほめカー ド		
10	○内容未定(10/7 研究職員会) ○遠足での取組, ほめほめカード		
11	○内容未定(11/18 研究職員会)		
12	○児童アンケート ○2学期の実践の評価	*児童アンケートの分析	○県学力調査(5・6年) ○町学力調査(1~4年)
1	○2学期の実践のまとめ, 見直し ○3学期の計画の立案 (1/20 研究職員会)	*研修講座の報告(各担当)	
2	○児童アンケート	*研究のまとめ(各自)	○県・町学力調査結果が学 校に返却される。 ○学力調査結果分析 (2/17 研究職員会)
3	○来年度の研究の方向性 (3/3 職員会)		○学力育成取組充実シー トの作成(担当→町教委)

9 その他

○来年度の算数の発表について

期日：令和7年？月？日

会場：？

発表内容：今年度の算数科の学年別指導の授業実践を報告する。

発表者：板垣紘和

発表へ向けての取り組み

- ・校長先生，板垣先生，大畑を中心に全職員で授業実践を重ねる。
- ・板垣先生，大畑はできれば算数科で一人一授業の公開を行う。
- ・益田教育事務所の算数科指導主事等に適宜指導していただいたり，相談にのっていただいたりする。